

プロジェクトはこのように展開します。(子ロバ保育園実践より)

3才児

教育のねらい(発達領域) 大きい小さい

テーマ「3匹のくま」

「保育室のおままごとコーナーに3匹のくまの家を作りました。お父さんぐま、おかあさんぐま、あかちゃんぐまの人形を置いたり、食器や調理器具、材料などもそれぞれ3匹にあった3種類の大きさ、大・中・小を揃えて置きました。いつもと違うおままごとコーナーに最初は「何ここ？」とびっくりした子どもたちでしたが絵本を読みプロジェクトを進めていくと3匹のくまの世話をしたり、人形や椅子、ベットを使って「椅子に座ったから次はベットやな」と子どもたち同士で物語を思い出しながら物語を進めていくようになりました。」

(3才児担任の言葉)

保育室に遊びの状況を創り出します

保育室の正面出入り口を3匹のくまちゃんの小さな家の玄関に変えます。本物の枝を使って、森の風合いを作って、「3匹のくまちゃんの家」という看板も作ります。

今月のテーマが分かりやすく展示されています。





家庭的な感じを出すのに、植木鉢や踏み石を玄関前の階段に置かれています。保育室の中に、面白くて思いがけないところにテディベアーが置かれています。



発見ゾーン興味を引き出すための素材が集められています。プロジェクト展開で使うためのさまざまな小道具や保育素材が集められている場所を発見ゾーンと呼んでいます。発見ゾーンは子どもたちの興味関心に火をつけ、新しいプロジェクトに向けて好奇心を刺激します。子どもたちが探索できるように発見コーナーに様々な大きさの素材を置きます。テディベアーカウンター（数をかぞえるおもちゃ）、異なった大きさのボール、

大きさの違う人形、積み木、2種類の大きさの似ている品物、多様な大きさのビーズと積み木などを追加します。



素材を順序付けて、分類するための容器も用意します。3匹のくまちゃんのお話の登場人物を貼り付けたフランネルボードと、紙皿で作った簡単なお面も用意します。

コミュニティプロジェクトを立ち上げます

クラス内で子どもたちが共同して学び、問題を解決することができるようにコミュニティプロジェクトを設定します。

発達の状態が何年にもわたり継続していく中で、子どもたちがそれぞれの発達段階で、様々な子どもたちと一緒にそのプロジェクトに取り組むことができるようにします。プロジェクトを終了する時には、クラス全体で成果を共有してお祝いします。



不思議なコーナーの設定

くまちゃんのお椀と呼ばれ、ビニールのテーブルクロスでテーブルを覆います。小さいお椀から始めて、プロジェクトの間にだんだん大きくしていくことを子どもたちに説明します。

5歳児の部屋ではジャックと豆の木が展開されていたのですが、豆の木が毎日お大きくなって、天井まで届いていました。



(5歳児ジャックと豆の木の不思議なコーナーより)